

## 「L P ガス国際セミナー2019」で何が討議されたか

### ① 2030年原油生産はピークもN G Lは増加を続ける！

3月5～6日の2日間、L P ガス振興センターが主催する「国際L P ガスセミナー2019」が東京大手町の日経ホールで開かれ、内外から約600名が参加した。1991年から始まった「産消セミナー」は今回で29回目となった。

このすべてを紹介はできないが、非常に注目されるプレゼンテーションがいくつかあった。そのうちから毎年参加されているI H Sのウォルト・ハートさんの基調報告、米国の石油・ガスミッドストリーム企業エンタープライズ社のジャスティン・クライスラーさん、中国の広東油気商会のベンジャミン・ヤオの報告概要を取り上げる。今後の国際L P ガス市場の行方・あり方に関する示唆に富む内容だった。

### 基調講演『世界のL P G：発展する市場におけるチャンスとチャレンジ』

I H S マーケット社副社長・ウォルト・ハート

#### <3億トンを超えた世界のL P G需要>

① 2018年世界のL P G供給量は3億トンを超えた。2024年には3億5千万トんに達する。供給増の大半は北米によるものだ。L P Gを世界市場へ輸出するのも引き続き米国で、サウジも増加傾向を辿る。2020年には世界の輸出貿易量は1億トンとなる。うち約40%が米国から輸出されるだろう。

② 世界のL P G需要は2018年に3億トンを超えた。2025年には3億5千万トンとなる。需要が増加するのはアジア。日本・韓国は既に成熟市場であり、需要増が著しいのは中国・インド・インドネシアだ。したがって、米国のL P Gは主としてこの3カ国への輸出を増加させていくことになる。アジアやアフリカ諸国でのL P G需要は家庭業務用分野で大幅に伸びる。中国ではPDH用を中心に石油化学用分野で需要増が続くが、それがすべてではない。L N Gとの競合の中で家庭業務用・産業用でも伸びるだろう。

#### <シェールオイル・ガス増産で米国からの供給は大幅増に>

③ 世界の原油・コンデンセートの生産量は2030年にピーク約9千万バレル/日となり、その後は高原状態で横ばいとなる。2030年には世界の石油需要もピークとなる。最近の原油価格の低迷(50ドル/バレル)は米国の原油・ガスの開発への投資を減少させているが、米国の原油生産量は2020年代の早い時期に1,400万バレル/日となる。米国の天然ガス生産量は2025年には100Bcf/日となる。マーセラス、ユーティカ、イーグル・フォードの生産はまだ大きく伸びる。N G Lの生産は急増する。シェールガスとシェールオイル層の開発がそれを主導する。石油精製からの生産は横ばいにとどまる。エタンとプロパンの生産量が大幅に増加する。ノルマルブタンとイソブタンは横ばい程度だ。

④ 米国のL P G供給量は国内需要量を大きく上回り続ける。内需は150万バレル/日が2000年から続いており、この先は微減で推移する。供給は2018年250万バレル/日、2020年290万バレル/日、2025年300万バレル/日超。余剰分は輸出しかない。世界的にもプロパン生産量の伸びは鈍化するが、上記のとおり増加が続く。石油精製生産分は横ばいにとどまる。

⑤ 世界のプロパン消費は家庭業務用と化学原料用で大幅に増加する。アジア市場では両分野で大幅増加する。ここ数年間はブタンが南アジア・東南アジアでより需要が増加するが、これらの地域も次第にプロパンに移っていくことになる。 「ブタン高・プロパン安」はなおしばらく続くこととなる。

#### <アジアが米国産LPGの大半を吸収>

⑥ 米国はプロパンの世界最大に輸出国となったが、そのほとんどを輸入するのは、アジアだ。中国・インド・日本・韓国・台湾。中国のプロパン輸入量は2020年には約2,000万ト、2025年には2,300万ト、2030年2,800万トとなる。2017年には米国からの輸入が20% (350万ト) を占めていたが、米中貿易摩擦で昨年10月以降はゼロとなっている。

⑦ 2018年の中国のPDH用のプロパン需要の伸びは鈍化した。新規プランのトの立ち上げが1基だけにとどまったためだ。しかし、2019年には2基、2020年には4基の新規稼働が確実とみられる。このためプロパン輸入はまた大幅に増加することになる。米中貿易摩擦の影響で中国は米国産プロパンの輸入を止めて中東産に切り替えている。これが中国の輸入プロパン価格を5~20ドル高くしている。

#### <変化する国際LPGの流れ>

⑧ 既に述べたが、米国からアジアへのLPGの流れは変化している。米国からアジアへのLPG輸出量は2017年夏には120万ト/月だったが、2018年秋には160万ト/月ペースとなっている。南アジアのLPG需要は、2018年2,700万トでそのほとんどがインドだった。2025年には南アジアは4,000万ト需要となり、うちインドが3,900万トとなる。日本のLPG需要の3倍だ。インドは引き続きサウジなど中東産ガス国からの輸入が増加するだろうが、米国からの輸入も大幅に増加していく。

(注) 次回は中国とインドの報告を紹介。